

## ボディー・ランゲージ

### Yoko Kano

John T. Hoggard High School  
North Carolina, U.S.A.



学習者年齢： 13～18才  
日本語レベル： 初級～上級  
文化面の目的： 場面に応じたあいさつの仕方を学ぶ  
ボディー・ランゲージ(しぐさ、あいづち、目線)の必要性を認識する  
学習する日本語： あいさつ  
“おはよう / おはようございます、 さようなら”

#### 学習目標

自作の絵とテキストを使ったディスカッションやロールプレイを通じて、場面に応じた日本語のあいさつの仕方を学習する。特に、非言語的要素であるボディーランゲージ(しぐさ、あいづち、目線、笑顔)が必要であることを認識させる。日本人とコミュニケーションを図るための能力を、初級の段階から少しずつ養う。

#### 授業の進め方

1. 「こんにちは」「さようなら」などのあいさつを復習し、授業の目的を説明する。
2. 日本人の目線について気づいたことをあげさせる。テキストを読み、日米の目線の違いを学び、就職の面接試験に臨むアドバイスとして、試験官のネクタイのあたりを見るように言われることなど、教師が自らの体験談を話す。
3. あいづち、うなずきの意味などを考え、「はい」という言葉とともに練習する。
4. "How are you doing?"と「お元気ですか」の使い方の違いを話し合い、理解する。日本人が、「こんに

ちは」と言ってほほえむことにより、元気であることを表すことなどを知る。

5. 「さようなら」と言うとき、日本人が何度も振り返ってお辞儀することを知る。また、ホストとゲストという設定で、実際に家を出て別れる場面を教室のドアを使って練習する。
6. 「おはよう」と「おはようございます」を使う場面の違いを認識する。上下関係に応じたあいさつの仕方を覚える。
7. 最後にまとめの意味で、日本語を学ぶ際に必要なことについてディスカッションする。宿題として、常体ならびに敬体が使われている場面と、その時だれとだれがどんな会話をしているかを書いてくる。

#### 生徒の意見・反応

日本人独特のジェスチャーや教師自身の体験談に興味を示した。ロールプレイを通して日本人の思考を知ったことがよかったようだ。

#### 外国語学習と文化理解

これまでは、日本に関する授業と

言えば、生け花、武道、折り紙といったものを社会科の中で取り上げることが多かったが、それだけでは学習者に日本文化や日本人の思考方法を理解させることは難しい。日本語学習は、これらを体験的に理解するよい機会である。

例えば、「じゃ、またね」と言って、日本人の上司にあいさつをして帰る米国人を見ると、何か気恥ずかしく奇妙な気持ちがある。「米国人だから」と言って、日本人はこのような傾向をよく見過ごすが、これではせっかく日本に興味を持ち、学ぼうという姿勢のある学習者に、日本人の思考を体験させないことになる。

日本人の習慣や思考に同調して、それを身につけるべきだというのはなく、日本人に不快感や誤解を与えないように、その場に適した対応ができるようにすることが大切である。

異文化に拒否反応を示さない寛容な人格を形成するのに、日本語学習は貴重な材料を提供できる。日本語を単なる教科として教えるのではなく、学習者の人間形成過程において貴重な経験と教訓の糧となるよう、カリキュラムやレッスンプランを作成していく必要がある。